

## 枠組みは変えられるか

ニューヨークの世界貿易センタービルに旅客機が突っ込むという、恐ろしい出来事が発生した。犠牲者の方々のご冥福を心からお祈りしたい。

さて、何度となくテレビの画面に流れされている映像のひとつに、超高層ビルの崩壊シーンがある。ある新聞は、ビルの設計者が、ジャンボ機が衝突しても倒壊しないほどの強度を持たせた、と語ったと報じた。それなのに、なぜ崩壊したか。解説によれば、壁で支えるというビルの構造に原因があったという。突入した旅客機の重さに床が耐えられずに崩落し、それによってビルを支えていた壁も崩壊したという。

しかし、万一同じような事故が日本のビルでおきても、ビル全体の崩壊にはいたらない、と専門家はいう。その理由は、耐震性の違いにあるという。地震が多いわが国のビルは、多くの柱で支えられており、また、柱それぞれが揺れを吸収する機能を持っている。その典型が五重塔である。

五重塔の中心には柱がある。しかし、ある本によれば、建物の真ん中にみえる柱は、実は地面に立っているのではなく、吊り下げられた構造になっているものが多いという。塔を支えているのは木組みで作られた壁面であり、中心の柱は錘もりをかねた振り子の役割を果たしている。この柱が、建物の揺れとは反対方向に動き、全体として揺れを吸収することができる構造である。このように、衝撃を吸収する構造はいろいろある。

ところで、農協の事業、特に信用事業を巡る環境は急激に変化しており、これまで農協を特徴付けてきた組織や事業の基本的な構造に、衝撃を与えるとみられる。

例えば、行財政改革の一環として各省庁が取り組んでいる政策評価の動きがある。これは、一定の方式で政策の効果を測定して点数化し、ある水準以上でなければ廃止するというものである。政策評価の実施は行政の枠組みを変える可能性をもち、この動きは農業金融における政策金融にも及んでいる。もうひとつの大きな変化は、農協制度という枠組みに関するものであり、今般、系統金融の一体性を強めるという観点から、信用事業をめぐる法律改正が行われた。協同組織が全体として一体性を強めるという動きは、海外の協同組織でも同様に起きており、その帰趨が注目される。

問題は、これらの環境や制度の変化がもたらす衝撃を、系統組織が吸収できるかどうかであろう。これを考えるためには、変化それ自体とそれによる衝撃をまず正確に把握すること、そして系統を支えているものを改めて再確認したうえで、対応策を検討することが必要であろう。現在は、「協同組織とは」を改めて考えることが求められる時期なのではないだろうか。

本号では、このような問題意識から、今後の農協事業に影響を及ぼすとみられる環境や制度の変化を紹介するとともに、足元の動きを再確認するために信用事業の動向の回顧を試みた。

((株)農林中金総合研究所取締役調査第一部長 田中久義・たなかひさよし)